



## 知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



### 新橋の立ち食いそば「ポンヌッフ」

パリのセーヌ川に「ポンヌッフ」という橋がある。パリに現存する最古の橋だが、「ポンヌッフ」は新しい橋の意味である(ポンが橋、ヌッフが新しいの意)。つまり、「ポンヌッフ」とは、(最古の橋だが)「新橋」という意味になる。

ところで、JR新橋駅銀座口出口すぐそばに「ポンヌッフ」という名の立ち食いそば店がある。しかし、「ポンヌッフ」はフランス語だから、フランス料理店なら理解できるが、立ち食いそばの店名としてはちょっとおかしい。しかし、「新橋」と「ポンヌッフ」をかけているだけでなく、新橋駅の近く(そば)にあるから、と考えると妙に納得してしまう。



やぶさかではない



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

意味合いが曖昧なせいか、最近では使わなくなった言葉だ。「やぶさか」を漢字で書くと「吝か」。けち、物惜しみする意味だ。ここから「思い切りの悪い状態」をいうようになった。

「やぶかではない」は、「やぶさか」に「ない」をつけてそれを否定した表現であり、「喜んで～をする」「積極的に～をする」といった意味になる。ところが この「ない」のせいか、あまりいい表現とは受け取られていないようだ。以前はよく「誤りを認めるのはやぶさかではない」などと言ったものだが、最近はあまり聞かれなくなってしまった。

### 右と左、どちらが上？

右利きの方が多いので「右が上」という人もいれば、王貞治もイチローも左打者だから「左が上」と主張する人がいるかもしれない。官位でいうと、日本では古くから左大臣が右大臣より上位に置かれた。これは中国の官制で左の方が上だったからだ。丞相が2人いるときは、左丞相が右丞相より上だった。これが日本に伝わって左大臣が上位とされたのである。

一方、「左遷」は降格であり、逆に人より優れていることを「右に出る」といい、「この分野においては彼の右に出る者はいない」と表現する。どうも決着はつきそうにない。

「左」「右」に人偏をつけると「佐」「佑」となる。「補佐」「天佑」などと使われ、どちらの例も「助ける」意だ。序列をつけるのではなく、「右」も「左」もお互い助け合っていきたいものである。

### 世界で初めて乾電池を発明した日本人、屋井先蔵(やいさきぞう)

司馬遼太郎の代表作「坂の上の雲」では日本海海戦における勝因の一つとして、下瀬火薬、伊集院信管の存在があげられていたが、陸軍勝利の要因としては「乾電池」の存在が大きい。

電池は佐久間象山が日本で初めて作ったといわれているが、液体式電池だったため、メンテナンスが大変なうえ、寒冷地では液体が固まってしまうという難点があった。これを克服したのが屋井先蔵が明治20年(1887)に発明した「乾電池」である。小型で使いやすく、極寒の地でも凍結しない屋井の乾電池は、無線機が欠かせない戦地で大いに役立ったのである。「日清戦争に勝利できたのは乾電池のおかげだ」と新聞に掲載され、明治後期から





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

大正時代にかけて屋井乾電池は売上を伸ばし、屋井は乾電池王と呼ばれるようになったのである。

しかし、特許を取得しなかったことや後継者がいなかったことから、戦後屋井の名前は忘れ去られてしまった。長岡市出身の「屋井先蔵」、再評価してほしい偉人の1人である。

(追記)屋井は昭和2年に63歳で亡くなるが、彼の乾電池は主として軍や大学で使われていた。それを手提げランプなどで乾電池を民生用(一般家庭向け)に普及させたのが松下幸之助である。

### なぜ『歌舞伎町』というのか

新宿一番の歓楽街、歌舞伎町にはどこを探しても歌舞伎に縁のありそうなものはない。

実はこの周辺は昭和20年の東京大空襲で一面焼け野原となった。戦後、現在の歌舞伎町一番街付近に歌舞伎の演舞場を建設し、これを中核として芸能施設を集め、新東京の最も健全な家庭センターを建設するという復興事業案がまとめられた。

この都市計画から、新しい町は早々と「歌舞伎町」と名付けられた。しかし、財政面などからこの構想は実現せず、新宿コマ劇場が建設されるにとどまった(コマ劇場は10年前に閉館、2015年4月「新宿東宝ビル」に生まれ変わった)。地域の願いはかなわなかったのだが、その後当初の計画とは違って、現在の遊興街として発展を遂げたのである。